

# 令和6年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

## キックオフミーティング 資料

活動団体の活動におけるテーマ

『いもいりビングらぼが創出する  
持続可能な地域コミュニティ』

活動団体の活動地域：長野県長野市芋井

活動団体名：芋井地区住民自治協議会

中間支援主体名：特定非営利活動法人

長野県NPOセンター

# 活動団体と地域の紹介

芋井地区は、長野市中心部から自動車  
で20分～30分の位置。棚田など田舎の風情  
と農山村文化が色濃く残っている。

面積32km<sup>2</sup>、人口1,920人、世帯数955  
(2023年12月1日現在)。

市街地に隣接する兼業農業地帯として、りんご、米、野菜の産地。また、飯縄山のふもとに広がる飯綱高原は自然豊かな定住・別荘地帯として発展した。

## 芋井地区住民自治協議会

長野市の都市内分権政策により2009年、  
地区ごとに32の住民自治協議会が設立され  
た一つ。協議会は地区の住民相互の交流と親  
睦を図り、共通の利益の増進、生活環境の保  
持・改善に努力し、文化・福祉の向上と豊かで  
住みやすい地域づくりに寄与することが目的。

15年目を迎え、地区の代表組織として①区  
長部会②福祉部会③教育部会④振興部会を中  
心に活動している。



# 活動計画（概要）

地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

**多様な地区住民と地区外の関係人口が人材交流・協働することにより、持続可能な地域コミュニティを創出し、自然環境を再生・整備する。**

地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

多様な視点で持続可能な地域を探る場として「いもいりビングらぼ」を2021年に設置している。

地域住民と地区外の専門的知識やスキルを持った企業やNPO、市内の大学に通う学生など若者も巻き込んで多様な発想やノウハウを積極的に取り入れたいと考えている。

地域の現状

現在の住民自治協議会は、地区内の構成団体のみで編成されており、事業が内向的になりがち。役員は、70歳代後半の男性が中心で、女性の参加が少なく、若い世代の流出により担い手が不足している。また、地区内の公園等は整備が行き届かなくなり荒れて、訪れる人も少なくなっている。

ローカルSDGs事業として取り組む内容

- 1.草刈りバスターズ、芋井YOSAKU隊事業**（次ページで写真を紹介）
- 2.シェアビレッジ、自然環境体験教育、探求的な学びのフィールド提供事業**
- 3.災害に強いレジリエントな地域づくり、山林資源の活用事業**

# 活動団体の活動内容

## 草刈りバスターズ

機材の使い方を学び、草刈りを  
楽しんで、地域の「やっかいごと」  
も刈り払おう(2024年6月9日)



## 芋井YOSAKU隊

公道や公共施設周辺の支障木  
を伐採し、薪などに活用しよう  
(2023年4月16日)



# 目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

## 現時点での体制



# 3か年状態目標

## 2026年度末の状態目標

- 「いもいりビングらぼ」の定例会を開催し、新たな参加者が加わっている。
- 事業運営チームが実施主体となって、ローカルSDGs事業がスタートしている。
- 事業成果を検証し、ブラッシュアップしながら中長期の計画を策定している。

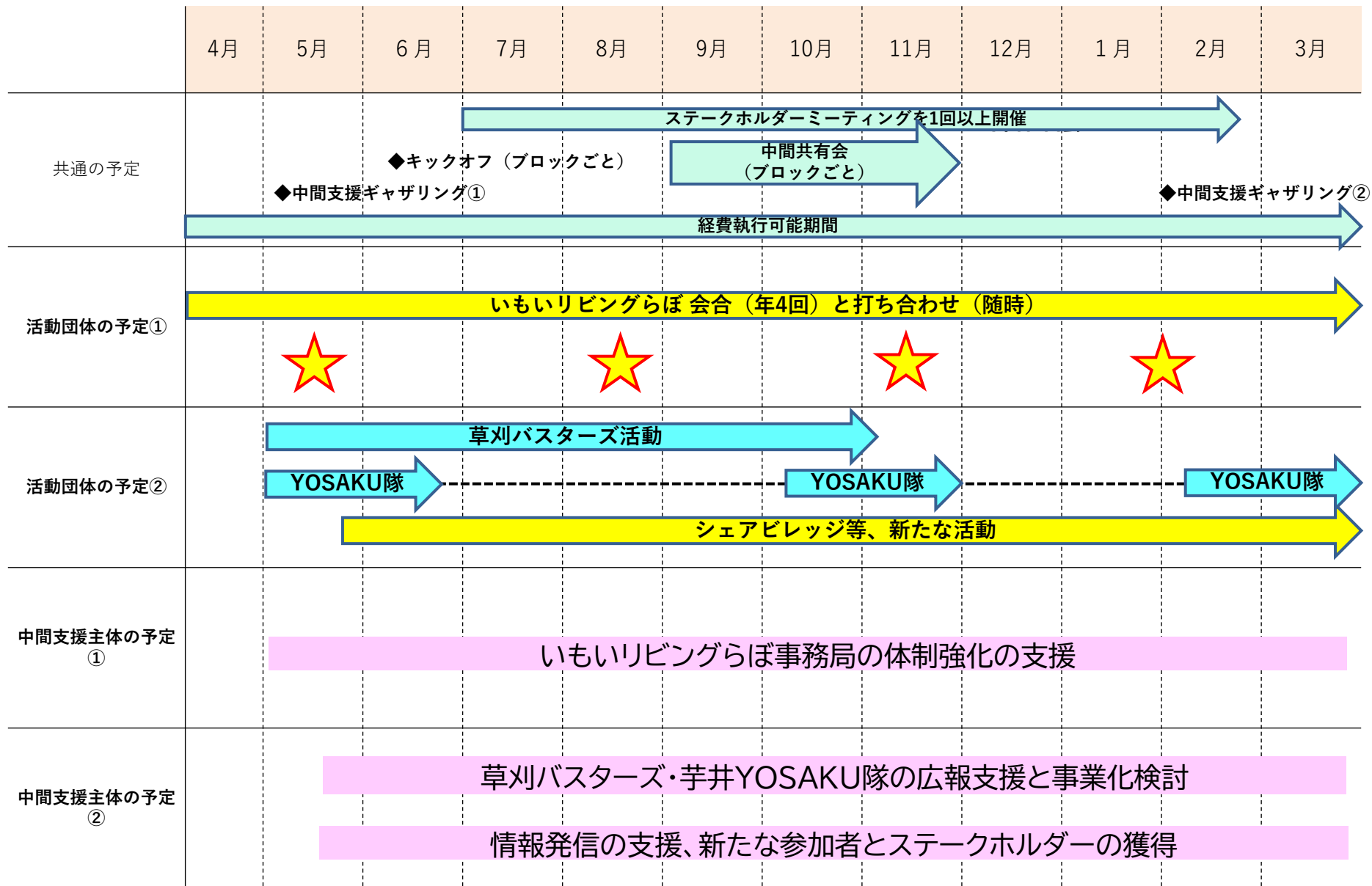
## 2025年度末の状態目標

- 「いもいりビングらぼ」の定例会を開催し、新たな参加者が加わっている。
- ステークホルダーの役割を整理し、事業運営チームを編成している。
- 地域の将来ビジョンをまとめ、ローカルSDGs事業の計画を立てている。

## 2024年度末の状態目標

- 「いもいりビングらぼ」の定例会を4回開催し、地域課題や資源の発掘を行ない、メンバーに新たなステークホルダーが加わっている。
- 主要なステークホルダーを中心に、将来ビジョンの策定を開始している。
- 中核を担うメンバーで事務局を設置、運営している。

# 活動計画



# 中間支援主体より

## 中間支援主体の紹介



ビジョン(目標) **みんなで100年先も暮らしたい長野県にしよう！**

ミッション(使命) **信頼される社会の変革者として、人と地域の参加・協働を創り出す**

特定非営利活動法人長野県NPOセンターは、1999年4月22日に設立した長野県における民間の中間支援組織第一号。25周年を迎え、今年中に認定NPO法人の取得をめざしている。

長野県における市民社会の発展をめざし、民間非営利組織が地域や分野を越え幅広く活動するための基盤づくりを進めるとともに、企業や行政等多様な主体とのパートナーシップの形成促進と持続可能な地域づくりの推進を目的にしている。

## 活動団体の取組へのコメント、中間支援の方針・計画

「いもいりビングらぼ」を中心に、新たな参加者とステークホルダーを加えることで活動を活性化・発展せさ、将来の共通目標となる地域ビジョンの作成と、ローカルSDGs事業の素案づくりを進めたいと考え、①地域課題と地域資源の「見える化」などの情報発信の支援、②事務局の体制強化の支援、③持続可能な事業化構築の支援、に取り組んでいます。